

## 第8期計画における高齢者の自立支援と重度化防止の取組 自己評価及び分析結果（令和3年度実績）

### ① 高齢者の自立支援と重度化防止の取組

（計画書P60）

#### 【計画記載内容】

区分	取組内容	目標			実績 (上段：数値、下段：達成状況)		
		R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
一般介護予防事業の推進	高齢者の運動機能の向上を図るため「心身活性化教室」を開催するとともに、通所型介護予防事業を推進します。	「心身活性化教室」参加人数（人）	135	135	135	38 ×	
		通所型介護予防事業参加人数（人）	140	140	140	22 ×	
	高齢者が低栄養状態になるのを防ぐため、栄養改善事業を推進します。	栄養改善事業参加人数（人）	70	70	70	49 △	
	高齢者の口腔機能低下を防ぐため、口腔機能向上事業を推進します。	口腔機能向上事業参加人数（人）	65	65	65	49 △	
包括的なケアマネジメントの推進	ケアマネジャーの質向上やケアプラン作成のスキルアップを支援するため、主任ケアマネジャーによるケアプラン作成技術の指導等日常的な個別指導を行います。	ケアプラン作成技術の指導回数（回）	8	10	10	9 ◎	
		ケアプラン作成研修の実施回数（回）	1	1	1	1 ◎	
		「ケアマネ連絡会」開催回数（回）	2	2	2	0 ×	
	個別事例を通じた多職種協働による利用者支援を目的として「地域ケア会議」を開催します。	「地域ケア会議」開催回数（回）	4	4	4	4 ◎	
		個別ケース検討件数（件）	22	22	24	15 ×	

（達成状況：100%以上◎・70～99%△・69%以下×）

#### 【進捗管理による分析内容】

現状と課題	<p>当町の総人口は減少傾向が続いている反面、高齢化率は伸び続けています。</p> <p>後期高齢者の占める割合や要介護認定率も増加傾向にあることから、被保険者数と要介護認定者数の反比例を防ぎ、高齢者がいつまでも元気で自立した生活を送れるよう、介護予防事業の推進による自立支援・重度化防止の取組強化が必要となっています。</p> <p>さらには、サービス利用者の個別事例を通じた多職種協働による利用者支援を行うなど、包括的なケアマネジメントの推進を図る必要があります。</p>
-------	--

#### 【実績／課題と対応策】

区分	一般介護予防事業の推進	取組内容	心身活性化教室
実績	令和3年度：1か所3回(11～1月)38人		
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により前年より実施回数が減ってしまい、参加人数が減少した。しかし、アンケートから参加者の満足度は高いようで、参加者増には「参加するきっかけ」づくりについても工夫が必要。</li> <li>・目標達成のためには、感染症対策を踏まえた開催方法の検討、人員・業務の体制整備が必要となる。</li> <li>・ロコモ予防では、家でも簡単にできる体操を紹介することで日常からの継続的な取り組みを促していく。</li> </ul>		

区分	一般介護予防事業の推進	取組内容	通所型介護予防事業
実績	令和3年度：22人		
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内で利用できる事業所が3か所あるうち、1か所のみでの稼働となっており、潜在事業所を稼働させるためにも利用者を掘り起こしを行い、介護予防支援を進めていきたい。</li> </ul>		

区分	一般介護予防事業の推進	取組内容	栄養改善事業
実績	令和3年度:2カ所4回(11,12月)31人		
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年より実施回数を増やしたが、参加者は増えなかった。</li> <li>・食生活改善推進員とともに実施することで、カルシウムが豊富なメニューや、筋力強化メニューなど介護予防を重視した高齢者向けのメニュー開発につながっており、継続的に取り組む事でより効果が期待できると思われる。また、新規参加者の増加に向け周知方法も再検討していく。</li> <li>・参加者個々の栄養摂取状況をその場でアセスメントできていないのが課題。今後は個人の栄養状況をチェックし、その場で指導できるよう実施方法を工夫していく。</li> </ul>		

区分	一般介護予防事業の推進	取組内容	口腔機能向上事業
実績	令和3年度:1カ所4回(11~1月)49人		
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種教室と併せて開催することで昨年より実施回数を増やせたので、参加者も増えた。</li> <li>・簡単な体操なので、参加者には自宅でも継続して実施するよう伝えているが、ほとんどの人は教室でしか実施していない。今後は自宅でも取り組めるよう説明や資料を工夫しながら、教室でも継続実施し体操を行うことを定着させたい。また、今後も他の高齢者教室等でも取り組み、さらに実施回数を増やしていきたい。</li> </ul>		

区分	包括的なケアマネジメントの推進	取組内容	ケアプラン作成技術の指導
実績	令和3年度:9回		
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9件82月分のケアプラン点検を行い目標を上回る結果となった。今後も月1件を目標にケアマネとの面談・指導を行っていく予定。</li> </ul>		

区分	包括的なケアマネジメントの推進	取組内容	ケアプラン作成研修会
実績	令和3年度:1回		
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に外部講師による研修会を実施し、町内居宅・施設ケアマネ20名の参加があった。今後も、年1回の研修会開催を目標として取り組む。</li> </ul>		

区分	包括的なケアマネジメントの推進	取組内容	ケアマネ連絡会
実績	令和3年度:0回		
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により連絡会を開催できなかった。次年度は感染症対策を踏まえた開催方法を検討し、具体的なケアプラン作成の事例などを学べる場として連絡会を開催したい。</li> </ul>		

区分	包括的なケアマネジメントの推進	取組内容	地域ケア会議
実績	令和3年度:4回		
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度は対面3回書面1回の開催となった。多職種協働の観点から町内の関連事業所から最低1名以上の出席を求め、行政と事業所間での協力・連携体制や情報交換を密にしていきたい。</li> </ul>		

区分	包括的なケアマネジメントの推進	取組内容	個別ケース検討
実績	令和3年度:15件		
課題と対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難事例の解決には当事者や家族との関わりが非常に重要となり、解決までじっくりと時間をかけて取り組むケースもあれば、早急に対応が必要なケースもあり、柔軟に対応できる体制づくりも必要となる。</li> </ul>		

【計画記載内容】

事業名	取組内容	目標			実績 (上段：数値、下段：達成状況)		
		R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
①要介護認定の適正化	認定調査員が行う調査の特徴や傾向を把握し、認定調査員それぞれが陥りやすい誤った判断について改善指導を行い、適正な要介護認定審査がなされるよう務めます。	10	10	101	48 ◎		
②ケアプランの点検	居宅介護支援事業所や施設等の介護支援専門員（ケアマネジャー）が作成するケアプランを点検し、適正なサービス提供が行えるよう指導を行っていきます。	60	72	90	82 ◎		
③住宅改修・福祉用具の点検	利用者の状態・環境からみた住宅改修・福祉用具の必要性を全件確認、必要により事前・事後の訪問確認を実施します。	10	10	10	6 ×		
④医療情報都の突合・縦覧点検	北海道国民健康保険団体連合会からの情報等を活用し、給付実績の縦覧点検・医療情報都の突合を実施します。	50	50	50	191 ◎		
⑤介護給付費通知	サービス利用者に対して、サービス利用状況の確認に活用していただけるよう、年に1回、利用したサービス種類や介護給付費の額、利用者負担額等の実績を通知します。	1	1	1	1 ◎		
⑥給付実績の活用	国保連合会における審査支払の結果から得られる給付実績を活用して、事業所の運営状況等を確認し、適正なサービス提供及び事業者の指導育成を図ります。また、国保連合会が提供する給付適正化システムより抽出される各種帳票を点検し、適正なサービス提供が行われるようケアプラン指導等に活用します。	10	12	15	9 △		

(達成状況：100%以上◎・70~99%△・69%以下×)

【進捗管理による分析内容】

現状と課題	<p>当町の被保険者数は減少傾向にあるが、高齢化率・認定率ともに増加を続けており、2040年度の推計値では2018年度から高齢化率10ポイント・要介護認定率5ポイント上昇する見込みとなっています。</p> <p>サービスの利用状況も増加傾向にあり、給付費負担も増え保険料額もさらなる増加が見込まれていることから、利用者が真に必要とするサービスを適切に提供する体制を確保する必要があります。</p>
-------	--

【実績／課題と対応策】

事業名	①要介護認定の適正化	取組内容	調査票事後点検による改善指導
実績	令和3年度:48件		
課題と対応策	・直営・委託にかかわらず、認定調査票の提出を受けた後に事後点検を行い、項目の選択ミスや特記事項の記載例など、調査員へ直接指導し公平な調査結果となるよう努めており、今後も継続していきたい。		

区分	②ケアプランの点検	取組内容	ケアプラン点検
実績	令和3年度:82月		
課題と対応策	・9件82月分のケアプラン点検を行い目標を上回る結果となった。今後も月1件を目標にケアマネとの面談・指導を行っていく予定。		

区分	③住宅改修・福祉用具の点検	取組内容	訪問確認
実績	令和3年度:6件		
課題と対応策	・申請全件を写真にて確認しているため、訪問での確認は住宅改修5件・福祉用具1件のみにとどまった。今後は定期的な訪問確認を行うよう努める。		

区分	④医療情報都の突合・縦覧点検	取組内容	突合
実績	令和3年度:229件		
課題と対応策	・国保分、後期分をあわせて229件の突合を行った、突合の結果、追加確認を行うケースは少ないが、今後も突合を実施していく。		

区分	⑤介護給付費通知	取組内容	発行
実績	令和3年度:1回		
課題と対応策	・11月下旬に令和2年10月提供分から令和3年9月提供分までの給付実績を記載した通知書を、対象期間に給付実績がある全ての被保険者へ送付し、利用状況を確認していただいた。送付後、数件の問い合わせがあるため、今後も年1回の送付を継続していく。		

区分	⑥給付実績の活用	取組内容	活用
実績	令和3年度:9件		
課題と対応策	・国保連からの給付実績の活用は、主にケアプラン点検対象者の抽出に活用している。今後は適正なサービス提供が行われているかの確認についても活用していきたい。		